

加太地区

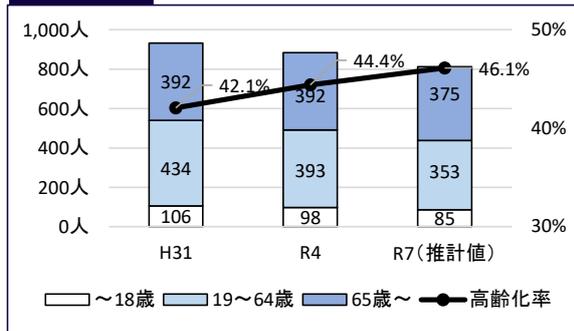
◆概要

	【位置図】	まち協名	加太地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市加太板屋4622-1	電話	0595-98-0008
		地区構成	市場 向井 梶ヶ坂 板屋 神武 北在家 中在家		
		地域特性	亀山市の西端にあり伊賀市に隣接し、7地区で構成されています。小学校、保育所、加太出張所、林業総合センター等があり、地域住民による活動も活発です。また、森林公園「やまびこ」、東海自然歩道、加太の森テラス等自然に恵まれ、川俣神社や鹿伏兎城跡、鉄道遺産群の散策ルート整備もあり、景観と歴史を求めるハイカーが近年増加傾向にあります。交通面は、JR西日本関西本線と大阪・名古屋を結ぶ名阪国道が並走する形で東西にのびています。		
面積	3,757.2ha	ホームページ	https://kabutomachi.jimdofree.com/		
めざす姿	美しい加太、元気な加太、誇りある加太				
地域の誇り	緑豊かな山林資源、美しい山村風景、加太越え奈良道や鹿伏兎城跡などの歴史的遺産がある				

◆人口

	平成31年	令和4年	令和7年 (推計値)	増減	
総人口	932人	883人	813人	-49人	
人口密度	0.25人/ha	0.24人/ha	0.22人/ha	-0.01人/ha	
65歳以上	人口	392人	392人	375人	0人
	比率	42.1%	44.4%	46.1%	2.3%
18歳以下	人口	106人	98人	85人	-8人
	比率	11.4%	11.1%	10.5%	-0.3%
外国籍	人口	11人	7人		-4人
	比率	1.2%	0.8%		-0.4%

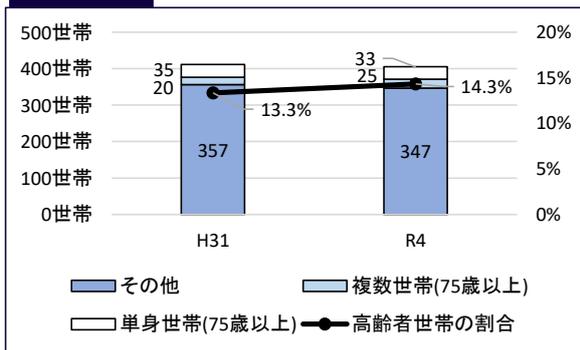
◆人口推移



◆世帯

	平成31年	令和4年	増減
総世帯	412世帯	405世帯	-7世帯
単身世帯 (75歳以上)	35世帯	33世帯	-2世帯
複数世帯 (75歳以上)	20世帯	25世帯	5世帯
高齢者世帯割合	13.3%	14.3%	1.0%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	平成31年	令和4年	増減
要支援1.2	25人	23人	-2人
要介護1～5	76人	73人	-3人
合計	101人	96人	-5人

◆地域組織

	平成31年	令和4年	増減
自治会	7	7	0
老人クラブ	0	0	0
子ども会	1	1	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	4
福祉委員	7
介護保険施設・事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	0
病院・診療所	0
歯科	0
保育所	1
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	1
放課後子ども教室	1
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	1
乗り合いタクシー停留所	19

◆担当地域包括支援センター

亀山第2地域包括支援センター もくれん

◆サロン活動

	平成31年	令和4年	増減
ふれあい・いきいきサロン	4	3	-1
子育てサロン	0	1	1
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【交流活動】

加太秋まつりなどを通じて交流活動を行っています。

【訪問活動】

75歳以上高齢者宅安心見守り訪問活動を年2回行っています。



加太サロン(加太駅舎内)



日本一周ウォーキング

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・加太地区運動会
- ・秋まつり
- ・地域スポーツ大会
- ・地域めぐり
- ・高齢者見守り活動
- ・敬老会
- ・日本一周ウォーキング
- ・加太駅舎を利用した地域活性化事業

◆生活支援コーディネーターからのコメント

加太地区の人口は883人で、そのうち44.4%にあたる392人は65歳以上です。地域内405世帯のうち、14.3%にあたる58世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の0.8%にあたる7人が外国籍です。

地域の特色として、自然豊かな環境のもと、田や畑を耕作する住民が多くみられますが、最近になり休耕地も多く存在し、空き家も目立ちやすくなってきています。しかしながら、昔からの慣習で日常での相互のつながりも深く、住民同士の見守りが日常的に行われています。また、買い物は、近隣地区のスーパーや地域内の個人商店、全地区に移動販売が行われ、地域を支えています。情報発信と交流の拠点として、4月にオープンした加太駅舎内の「加太サロン」では音楽発表などのイベントが行われたり、住民のたまり場となっており、地域の活性化につながっています。また、昨年度から開始した日本一周ウォーキングでは、111名が参加し、各自の運動管理を中心に積極的に取り組んでいます。今後も高齢者が増加する傾向にあることから、買い物や移動手段に関する丁寧なニーズの把握をもとに、住み慣れた地域で安心して生活し続けられるよう住民同士の支えあいのしくみの検討を行うとともに空き家の増加や人口減少などの課題についても議論していくことが期待されます。